

四日市南高生と「みのり工房」

災害備蓄セット箱詰め

協働交流会



【四日市】四日市市日永 A (柿市明紀会長) は六の県立四日市南高校とPTT日、同市西日野町の社会福

祉法人四季の里・就労移行支援事業所「みのり工房」(福原進吾所長)で、生徒と障害者の協働交流会を実施した。

PTAが、災害時の生徒・教職員用の飲料水や非常食、携帯トイレが一人分ずつセットされた備蓄用の「白い小箱」千三十個を導入するのに伴い、箱詰め作業を通して防災意識の向上と相互理解を深めるための交流会。同工房利用者七人と同校インターアクト部員四人が参加した。

生徒らは、箱の組み立てから簡易トイレや保存水、缶入りパンなどの詰め方を利用者らに教わりながら八飲料水や非常食を箱詰めする利用者や生徒ら四日市市西日野町の「みのり工房」で

十個を仕上げた。インターアクト部部長の横田菜さん(七)は「丁寧に教えてもらい、楽しく作業ができた。備蓄の大切さや防災について家族や友達と話し合いたい」と話していた。

「白い小箱」の導入は、県内で十三校目、北勢では四日市高、暁中・高、海星中・高に次いで四校目。販売する日本非常食推進機構は、就労支援事業所への箱詰め作業委託で、障害者の経済的自立も支援している。